講演

日 時／ 平成24年10月４日（木） 13：00～14：30
会 場／ 日本特殊陶業市民会館

名古屋市内９法人会合同講演会

ジャーナリスト
元讀売新聞社記者

大 谷 昭 宏 氏

『みんなの命輝くために』

雨降って地固まる

毎日のようにテレビでコメントしていますが、名古屋では『ドデスカ！』『スーパーニュース』『トコトン！１スタ』など３つの番組に出演しています。

日本には温泉、四季折々の花、きれいな海や川がある美しい国ですが、自然災害も多く、過去30年間の世界の災害での被害総額の16％は日本です。多くの災害と懸命に闘いながら、みんなで支え合って生きてきた日本ですが、それをきちんと引き継いでいるのかと疑問を持つことがあります。

先日、私は日進市の花火大会を見に行きましたが、「雨降って地固まる」のは、このことだと感じたことからお話します。

昨年、日進市が毎年開催する花火大会に（被災地の）川俣町で作られた花火もあげようと企画したのですが、「日進市に放射能が撒かれたらどうするのか」と抗議の電話がかかり、川俣町の花火屋は原発から離れ、避難指定地域でもなかったけれど、市は川俣町の花火をあげることを断念しました。愛知県に在住している福島からの被災者２百数十人が招待され、故郷の花火を見るのを楽しみにしていましたので、がっかりされました。その後、日進市の市長は川俣町にお詫びに行ったり、職員を派遣したりして川俣町とは絆を深めていきました。そして今年の花火大会では、川俣町の花“山つつじ”の色をした花火と、日進市の花“あじさい”の色の花火、その２つの花火を同時にあげて、花火大会「にっしん夢まつり」が開催されました。

イジメは大人社会の反映

全国的にイジメや児童虐待の問題が起きていますが、日進の花火大会の問題、がれきの問題と根っこで相通じるものがあるように思います。

がれきを引き受けると決まると、市役所や町役場に抗議の電話がかかってくるのですが、調べてみると地元の人は数パーセントで、他市の人からの抗議が多いようです。大阪の知事ががれきを引き受けると表明したとき、私は「よくぞ大阪は決意してくれた」とコメントしたら、奈良県の方から抗議の電話がありました。被災地の人たちは「自分たちは人の住んではいけないところに住んでいるのか」と災害の痛手をさらに深めています。

自分を守るために、気がつかないうちに人を追い詰めているのではないか。そうした大人の行動が、子どもたちの社会に反映され、それが社会を住みづらいものにしていると思うのです。

大津市の中学生がイジメで自殺して１年。周りの子どもたちはイジメがあったことに気がつき先生に申告していたにも関わらず、大人たちはイジメをないものとしました。

一転してイジメがあったと報道されると、ネット上で、自分の名前が明らかにならないことをいいことにして、関係のない人を血祭りにあげて、脅迫状を出した人もいます。

そこで頑張って生きていくしかない被災地の人や、逃げ場のない人を、あたかも自分が正義を振りかざすようにしてイジメて囃し立て、逃げ場のない人の欠点をあげつらって、みんなで徹底的にやっつけ、自分はスッとする。そういうことでストレスを発散するのが大人の社会だと、子どもたちは目の当たりに見ているのです。自分は安全圏内にいて、「あの人たちが困っても仕方ない」という考えを社会から排除していかないと、子どもの社会からイジメはなくならないと思います。

3つも荷物を持っているなら、1つ持ってやるよ

オスプレイ12機の沖縄配備は、尖閣諸島の問題もあり緊迫した状態ですので、輸送機として軍事的には必要かも知れませんが、なぜすべてが沖縄なのでしょうか。

私は普天間の基地に何度も行きました。基地の隣にある普天間第二小学校に、小学校としては素晴らしいフェンスがあるなと思ったら、基地のフェンスでした。そんな小学校の上をオスプレイが飛びます。50分の授業で最低15～20回耳をつんざく音で先生の声が聞こえなくなるそうです。

安全保障上仕方ないと、沖縄から出ていきようもない人たちの上に無理難題を押し付けていいのか。政府は3年前に「沖縄の負担軽減」と宣言したのに、3年経ったら増幅増大しています。

「お前、3つも荷物持っているなら、1つ俺が持ってやるよ」と言うのが人として当たり前の姿勢です。子どもたちに「思いやりを持て」「他人の痛みをわかろう」と言っても、「大人たちはやっているの？」と子どもに問われるのではないかと思います。

米軍基地と原発は峻別して考えなければいけません。

原発は地元議会が誘致に賛成、住民の賛同を得ています。しかし沖縄の県議会、市議会、町議会は基地があってもいいと議決したことはありません。世界最大級の嘉手納基地の真ん中にお墓があります。沖縄戦のとき本土に避難して、やっと父祖の地に戻ってお墓参りに行こうとしたら米軍のフェンスに囲まれていたのです。

弱いところにしわ寄せをしているのは、社会的なイジメです。

あちこちで起こっている児童虐待。豊橋では4歳女児の衰弱死。広島の小5の少女の事件は、ゴルフの練習用クラブで30分も殴りつけられています。児童虐待の報道ほど許し難く、やりきれない事件はありません。自分を守ってくれるはずの親からの虐待。4歳の子どもは自分で何とかすることができません。周りの大人が守るか、社会が助けださなければいけないのです。しかし裁判所や行政は「子どもは親元にいるのが一番の幸せ」という考え方から未だに抜け出せていません。言葉で「助け合い」「優しさ」と言っても絵空事に過ぎません。

政治は誰のために、何のためにあるのか

人気タレントの母親が生活保護を受けていたことで、国会議員がそのタレントを悪し様に攻撃、メディアもつるし上げるごとき報道をしました。

そのタレントは逃げ出すことも弁解することもできずにテレビカメラの前で謝るしかありませんでした。反論があることを承知で言えば、最高権力をもっている国会議員、まして財務省主計局出身の人間がやることでしょうか。確かに生活保護を不正需給している人はいますが0.3%ほどで、予算執行の中で0.3%しかロスの出ていない国の施策は優等生のほうです。

今朝の毎日新聞が勇気をもって復興予算の使われ方について書いていますが、生活保護の不正需給と復興予算19兆円の使い道のインチキと、金額を比べてみてください。

今年10月から復興税として所得税が2.1%上がりました。25年間です。それに加え住民税は一律1,000円の値上げです。

先日、ＮＨＫは、復興予算が５百数十項目も目茶苦茶な使われ方をされていると報道しました。国立競技場の修理費や、岐阜県のあるコンタクトレンズ会社への補助金。反捕鯨団体シーシェパードの対策費。石垣島のバスに設置された英語と中国語と韓国語の電光掲示板と音声案内のテープ。災害によって減った観光客が石垣島に行ってくれたら、どれだけ被災地の役に立つというのでしょうか。

女川では保冷庫が流され、仲買人の工場も潰れました。今期のサンマが豊漁でも加工工場がないので、全部函館に行ってしまうのを、指をくわえて眺めているだけです。「保冷庫が欲しい。港が欲しい」とみんなで運動してやっと復興できました。それで港近くに観光客用の直売店を作り、新鮮な魚を売ろうと申請をしたら、「産業振興のために港を造ったのだ。観光のためでは許可できない」と言われたのです。

復興税を徴収される国民の側に立ち、間違った使われ方を正すのが国会議員の仕事です。政治は誰のために、何をするためにあるのか。どういうことに使って欲しくて税金を払っているのか。法人会の皆様も、税金の使われ方をしっかりチェックしましょう。

誰かが大きなところで得をして、日々、額に汗して懸命に働く人たちが泣きをみています。

これから、どんな社会を子どもたちに遺してやるのか。法人会の皆様は、戦後から今日まで「この日本の豊かさを守ってくれ」という思いで汗して働いてこられました。もう一息頑張って、「次世代にこういう社会を引き継ぐために懸命に働いてきたのだ」という社会に、いま一度戻さなければいけません。

見えない恐怖

毎週金曜日、首相官邸の前で「原発反対」のデモ行進が行われています。先日、民意を反映させるために、デモ行進の代表者と野田総理大臣が会いました。私はそのことに疑問を感じています。議会制民主主義で、私たちは託して議員を選んでいます。首相官邸の前でギターを弾いてドラムを叩けば、その人たちに会うのか。あんな復興予算の使われ方でいいのか。ＴＰＰや消費増税など、国会に行き、「反対！」と言わないなら賛成なのか。

騒がしくしたら、その声を聞くというのであれば、直接制民主主義にすればいいのです。私たちは声が反映されると思うからこそ議会制民主主義をとり、選挙主義をとっているわけです。

川俣町山木屋地区を取材しました。牧場がある豊かな農村ですが人っ子一人いません。計画的避難区域ですから放射能の線量計をもつことが義務づけられています。さすがに居住不能地域に行きますと線量計の数値がぐんぐんと上がっていきますし、道路から薮のほうに行くと線量が４倍５倍になります。恐怖でした。色も匂いもなく、痛くも痒くもなく、そういう恐怖が人間を脅かしています。渓流釣りの名所にはイワナ、ヤマメが泳いでいますが、釣りは禁止です。栗や柿も採ることはできません。

父祖から大切に受け継いだ土地を田圃にし、果樹を植え、牧場を作り、懸命に働き実りある土地にしたのに一瞬で消失してしまったのです。国土の２％、３％を失った国民は世界に類を見ません。

四日市公害訴訟から約40年、判決は「企業は採算を度外視してでも一刻も早く煙の排出は止めろ」という画期的なものでした。原告団の一人で、いまも健在のお年寄りの漁師さんを取材しました。四日市では「涙がボロボロ出て、呼吸困難で酸素吸入をした」「すさまじい臭いがした」のですが、でも放射能は臭いも感覚の異常も何もなしに人の体に忍び寄り、気がついたときには被曝しているのです。

人間に痛いとか臭いとか熱いとかの五感を授けて自分の体を守りなさいと、神様は人間を作られたと思います。でも放射能の怖さは神様の想像の範囲を超えていました。だとすれば、安いエネルギーとか、地球温暖化にどうということ以前に、「人間の手に負えないものには触れてはいけない」と示唆されているのではないかと思います。それでも簡単には止められない様々な問題がありますから、どの方向に向かうのかは、国も政府も慌てず慎重に決めなくてはいけないと思います。

“お互い様”の心豊かな国にしたい

三重県松阪市の市長は、頑張れば1,000トンか2,000トンのがれきを引き受けることができると言ったら抗議が来ました。やはり県外の人が多かったようです。そのときに松阪市のお母さんたちが「私たちはボランティアに行けない。でもゴミの分別をしっかりしてクリーン作戦して、地元のゴミを減らせば、がれきの量をもっと引き受けられる。被災地に行かなくてもボランティアできる。行って片付けると同じ助け合いができる」と言った言葉に希望を感じました。

「反原発」デモに行かなくてもできることがあります。今年夏、大飯原発を再稼働させました。しかし関西地区の電気はピークでも数パーセントの余裕がありました。結果としてみんなが頑張って節電したことで余裕ができたのです。みんなが節電したら原発を再稼働させる必要はないのです。

いっぱい災害に見舞われる国ですが、もう一度手を繋ぎあって力を合わせて、いい国にすることができると思っています。弱い人、逃げ場のない人を追い詰める社会ではなく、「お前、いくつ荷物持っているんだ、いいよ、1個よこせよ」という形の豊かさをこの国に作っていきましょう。

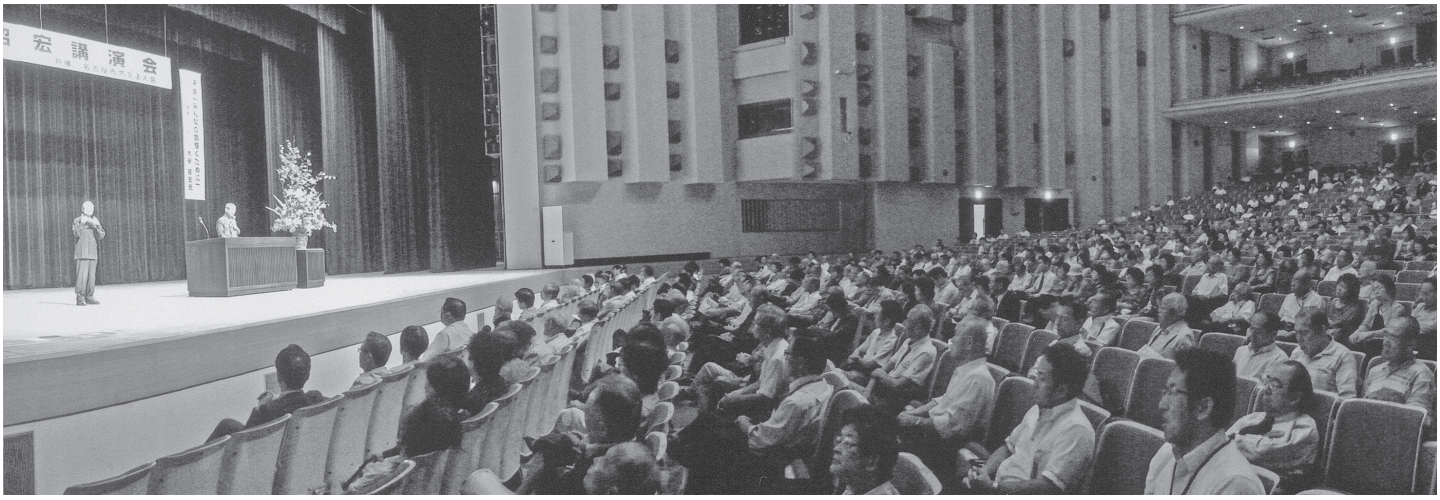
アメリカに次いで経済大国2位の日本でしたが、中国に追い抜かれました。中国の人口は13億人、日本は1億人です。やっと13億人が勝っただけなのです。日本が2位から3位になってもがっかりする必要はありません。

それより「本当の豊かさのある国、思いやりのある社会にするためなら税金を払おう」と法人会の多くの皆様は痛切に感じておられるのではないでしょうか。

私の隣家、ですから大阪のおばちゃんですが、その方の言葉です。「“絆”という言葉もいいけれど、昔から“お互い様”という言葉があったよ。いいからいいから、気にしないで。こちらも何時世話になるかも知れないんだから」

日進市と川俣町は互いに傷ついたけれど、これからはお互い様でやっていこうと2つの花火を並べて上げました。

名古屋市9法人会の皆様も一体となって、「お互い様」と言う心で、今後も素晴らしい発展を遂げられることを祈念して、話を終えたいと思います。

※この記事は、平成24年10月4日（木）の講演を要約したものです。

文責　（社）名古屋西法人会